

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

いよいよ米中劇場第一幕は終了し第二幕が開演、幕間のイラン寸劇はインパクト強すぎ (P2)

チーフカスタマーディーラー
井口慶一

今週のドル円予想レンジ **109.00 ~ 111.00**

りそなWEEKLY COLUMN

「Z世代」の台頭
～ ついてこい！バブル世代からゆとり世代まで ～

(P3)

りそな銀行 総合資金部 井川琢麻

- インターネット・通信技術が急速に進化してきた中で幼少期～青年期を過ごしてきた「Z世代」が新たな時代を切り拓く
- 「まさか」と思えるものがデータ化し現実の世界から淘汰されていく社会において、「Z世代」が生み出したイノベーションを積極的に受け入れる必要

2020/1/14

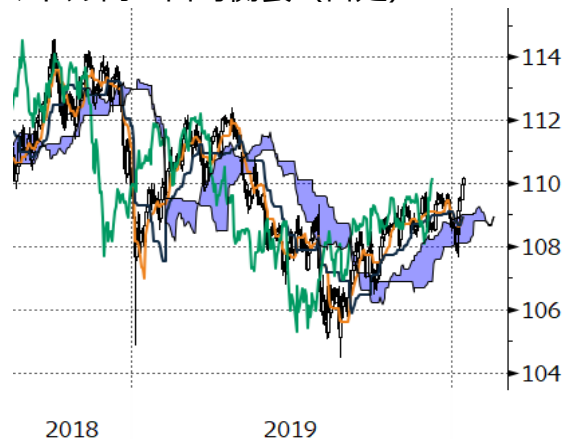
りそな外為レポート

いよいよ米中劇場第一幕は終了し第二幕が開演、
幕間のイラン寸劇はインパクト強すぎ

今週のドル円予想レンジ **109.00 ~ 111.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

先週のドル円は、イランが米国に報復攻撃を実行し戦争不可避の思惑から一時107円65銭まで下落。しかし、トランプ大統領が「軍事力行使は望まない」と述べると、リスク回避ポジションは一気に巻き戻され、ドル円は動悸息切れを感じさせるほどの急伸に次ぐ急伸で109円台を回復した。

ウクライナ航空機への誤射を(今さら)認めたことでイラン国内で体制批判が強まっており、米国憎しと思いつつも当面は国内政治の安定に注力せざるを得ないだろう。報復の応酬による泥沼化は回避される見込みで、VIX指数、原油価格ともに安定しており、マーケットの警戒感も低下している。今週の注目は、15日の米中第1段階の合意文書の署名。米中貿易戦争はひとまず正式に休戦となるが、トランプ大統領は「すぐに第2段階の協議を始める」としており、米中劇場第一幕は終了し、次はさらに長引くであろう第二幕の開演となるが、幕間のイランの寸劇がインパクト強すぎて観客は少々お疲れ気味。慎重に緩やかにリスクオン方向のイメージ。(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

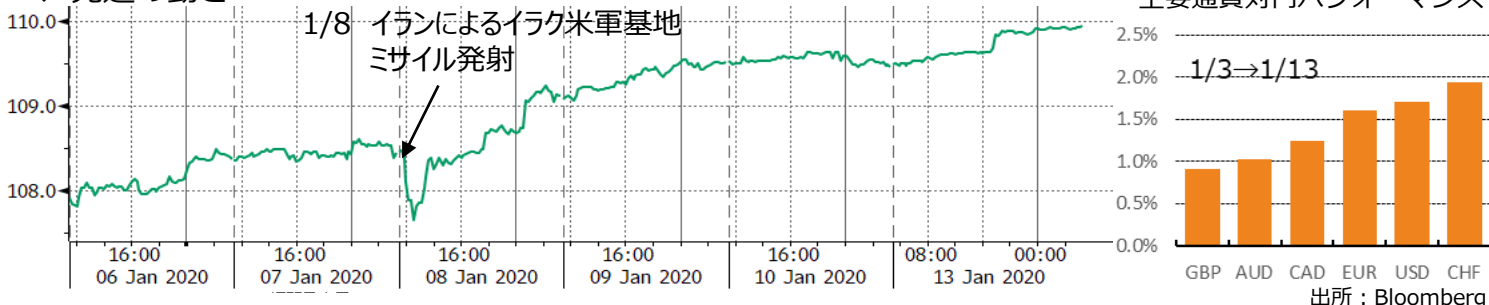
◆今週の日程

14日(火) 日	12月景気ウォッチャー調査	16日(木) 米	12月小売売上高
14日(火) 米	12月CPI	16日(木) 米	1月フィラデルフィア連銀製造業指数
15日(水) 米中	通商合意(第一段階)署名予定	17日(金) 米	12月住宅着工・許可件数
15日(水) 米	米地区連銀経済報告	17日(金) 米	12月鉱工業生産
16日(木) 日	11月機械受注	17日(金) 米	1月ミシガン大消費者信頼感指数

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 1月13日(月) 109.45円 VS 1月17日(金)

東京								大阪			埼玉					
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	高尾	中里	伊藤	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↑	休	↑	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/1/14

りそな WEEKLY COLUMN

「Z世代」の台頭

～ ついてこい！バブル世代からゆとり世代まで ～

- インターネット・通信技術が急速に進化してきた中で幼少期～青年期を過ごしてきた「Z世代」が新たな時代を切り拓く
- 「まさか」と思えるものがデータ化し現実の世界から淘汰されていく社会において、「Z世代」が生み出したイノベーションを積極的に受け入れる必要

りそな銀行 総合資金部
井川 琢麻

「Z世代」とは？

「食事中に携帯を触るな！」と両親から叱られた記憶が懐かしい。いまやファミレスやカフェに行くと、全員無言でスマホを見ているグループも珍しくない。マナーの問題はさておき「右手にフォーク、左人差し指はスマホの画面」である。

いま、「Z世代」と呼ばれる若者が今後先進国で台頭し、新たな時代を切り拓いていくといわれている。残念ながらその「Z世代」ではないのだが、一応当社市場部門では若い部類(?)である筆者が僭越ながら彼らを紹介致したい。

ダグラス・クーブランドの小説から生まれた言葉「ジェネレーションX」は、アメリカでは1960年代初頭から1970年代に生まれの世代を指す。テレビの家庭普及に伴い、情報とモノに溢れた環境で育った人々として描かれている。その次の世代として語られる「Y世代」は、「新千年紀（ミレニウム）が到来した2000年前後に社会に進出する世代」という意味でまたの名を「ミレニアル世代」とも呼ばれる。様々な定義があるが、2019年現在で25歳～45歳が該当し、FACEBOOK創設者のマーク・ザッカーバーグ氏に代表されるような、インターネット・通信技術が急速に進化してきた中で幼少期～青年期を過ごしてきた世代と言われる。米国発の言葉だが、日本含む資本主義の先進国の同世代も似たような時代を過ごしてきた。X世代は「新人類」～「バブル世代」、Y世代は「氷河期世代」～「ゆとり・さとり世代」あたりが日本ではそれに該当するであろうか。

そして時代は令和になり、あと2、3年もすれば「21世紀生まれ」が当社にも新入社員として迎えられるのだが、そんな彼らは「Z世代」と言われている。ミレニアル世代と違うのは、「生まれた瞬間からデジタルデバイスとインターネット環境が存在していた」ことである。今までのインターネットは「手段」や「道具」として用いられてきた一方、今の中高生にとってそれは生まれたときから存在する「空気」のようなものであり、インターネットの世界と現実世界の区別は非常に希薄だと思われる。

2020/1/14

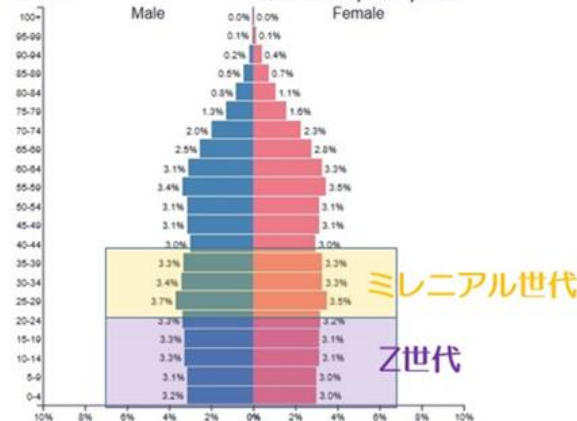
りそな WEEKLY COLUMN

財布を持たない「Z世代」

最近、就職活動中の大学生と話をすることがあり驚いたのだが、なんと彼は財布を持っていない（そもそも所有していない）という。スマートフォンと、スマートフォンのケースに挟んだクレジットカードのみで不便を感じていないからだそうだ。

消費増税とキャッシュレス還元の影響もあり、世の中のキャッシュレス化の流れは都心部の若い世代を中心にとどまることを知らない。我々がお金をおろすATMも現金を数えるレジも、それらを持ち歩くための財布も、遠くない将来に不要となるかもしれない。それらを作る工場、土地、従業員もまた然りである。きっと「銀行の店舗」も段々数を減らしていこう。ただしそれは消滅するわけではなく、「スマホの画面の中」に移転するということである。音楽や読書が好きな人でも「CD」や「文庫本」を買う機会が減った人はいるだろう。「切符」「年賀状」「新聞」あたりも同様の状況だ。今後、「まさか」と思えるものがデータ化し現実の世界から淘汰されていくかもしれない。Z世代はその流れの中心にいる。

United States of America ▼
2019
Population: 331,195,364



日本 ▼
2019
人口: 125,402,911



出典：https://www.populationpyramid.net/より、筆者作成

「Z世代」が「X世代」と「Y世代」を牽引する時代へ

さて、<図>は2019年における日米の人口ピラミッドである。米国は人口の半数程度がミレニアム世代及びZ世代で構成されており、移民の存在もあって今後もその存在感は増す一方だ。しかし、少子高齢化が進むところまで進んだ日本では、Z世代が成人し社会進出しても、「つぼ型」の人口ピラミッドが形を変えることはないだろう（移民が本格的に日本に流入しない限り）。加えて、医療技術・社会福祉の発展に伴い、平均寿命も定年も増加、ピラミッドの壺はますます頭でっかちの不安定な形状になっていく。

りそな WEEKLY COLUMN

それが意味するのは、米国は「Z世代」が生み出したものをZ世代が消費する経済であるのに対し、日本は、少なくとも先行き20年程度までは、Z世代が生み出したものを「Y世代」「X世代」が消費する経済ということである。

「失われた30年」を、「失われた40年、50年」にしないために、Z世代への期待は大きい。AI、IOT、5G・・・と、世の中を激変させる技術の話題には事欠かない昨今だが、米国と違ってわが国の場合、彼らZ世代が生み出したイノベーションを積極的に受け入れ、ネットと現実の境目を取り払うべきなのは「Y世代」「X世代」のほうかもしれない。

